

Yuta KUNO (Graduate student, Tsukuba Univ.), Hiroyuki KUSAKA (CCS, Tsukuba Univ.)

Keywords: Heavy precipitation, Short-term heavy precipitation, Nobi plain

1. はじめに

本研究では、空間的・時間的に高密度な観測データを用いて、夏季の濃尾平野周辺における降水の発生分布・発生時間帯の特性を明らかにすることを目的とする。

本解析では、アメダスデータおよび愛知県・岐阜県の川の防災情報の 10 分間雨量データを使用する。解析期間は、2002～2009 年の 6～9 月の全日(計 976 日)および真夏日(計 510 日)とする。また、日界は日射の効果を考慮し、日の出の時刻として 06 時(日本時間)と定めた。解析に際して、強雨日・短時間強雨日をそれぞれ、以下の条件を全て満たす日と定義する。

短時間強雨日: 1) 10 mm/h 以上の P_hour を記録した日.

3) P_hour が 10 mm/h 以上の期間の前後 6 時間に, 10 mm/h 以上の降水が観測されていない.

3. 結果と考察

3) 濃尾平野より北東の山地では、解析対象期間・真夏日ともに、10 mm/h 以上の強雨・短時間強雨の発生は夕方に顕著なピークを持つ。また、傾向は小さいものの、濃尾平野内でも真夏日の夕方に 10 mm/h 以上の強雨の発生ピークが見られた。

本研究は、文部科学省の委託事業「気候変動適応研究推進プログラム」において実施したものである。

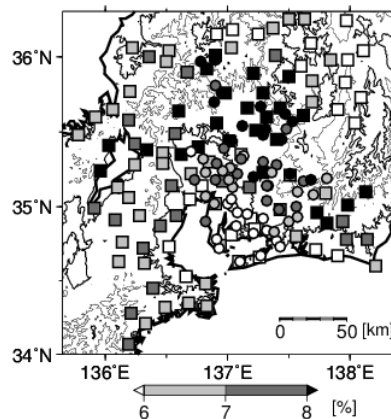


図1 濃尾平野周辺における2002～2009年6～9月の全日(計976日)の短時間強雨日出現確率

■: アメダス観測地点 ●: 川の防災情報雨量観測地点

標高を、100 m(太線)、750 m(細線)、1500 m(太線)で示す。

田中勝夫・深津林・服部満夫・松野光雄 1971. エコーの移動方向で分類した東海地方の大雨の型. 気象庁研究時報 23: 431-443.

小花隆司 1977. 東海地方の強雨と地形(I). 天気 24: 37-43.